

校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和5年度学校だより 「天の子」 第4号	発行日	令和5年5月8日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力と、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【新型コロナウイルス感染症対策】

約3年半にも及んだ新型コロナウイルス感染症との戦いもようやく収まりが見られ、現在、学校の教育活動も「正常時」に戻りつつあります。新型コロナウイルスの感染拡大は想定外ではありましたが、教育の世界においても、今後みなさんが生きている上でも想定外のことは絶対に起きます。大事なことはその局面でどう対応するのか。どう乗り切るかが重要です。

私自身、様々な感染防止のための対策において、校長として決断を求められる場面が多々ありました。校長として判断することの難しさ、教職員や保護者、地域がチームとして組織的に取り組むことの重要性を痛感しました。これが本当に「最良の対応なのか、子どもたちのためになっているのか、人として間違っていないか」と自問し、時には心が揺らぐ時もありましたが、これまで出会ってきた人たちの生き方や考え方、様々な書籍、本校教職員の叡智をもらい合わせながら、学校運営に努めてまいりました。



また、コロナ禍で学んできた子どもたちは、多少の困難には負けない強い精神力が備わったのではないのでしょうか。子どもたちは、教師の指示を待つだけでなく、タブレットを活用して計画を立てて学びを進めたり、学びに向かう力や自己調整力が身についてきたりしたと思います。

学校においては、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」による授業がスタートしたところでコロナ禍になりました。感染症対策による3密の回避など、直接的な対話が困難な状況の中で「コロナ時代の授業づくり」を模索し続けてきました。グループ活動を行う際も座席の配置を工夫したり、タブレットを活用して一人ひとりの思考を見える化し、思考をつなぐことによって学び合い活動を成立させたりしました。また、授業のライブ配信など様々な取組を行ってきました。コロナ禍が収束してもこれらの工夫ある取組は決して無駄ではなく、子どもたちや教職員とともに、新しいものを生み出してきたことが「財産」になったと思います。

これからの予測困難な時代を生きる子どもたちにとって、自ら考えて、判断して、行動できることを学ぶことができました。また、今後も授業をはじめ、すべての教育活動を通して、子どもたちに「答えのない問題に向き合うための力」を身につけさせ、さらに、伸ばしていくためにはどうすればよいかをしっかりと考え、実践してまいります。まだ、完全にコロナ禍は収まってはおりませんが、これまで多くのご支援やご協力をいただきましたことに感謝いたします。

【自己肯定感】

現在、G R I T（グリット：困難に直面してもやり抜く力）や、レジリエンス（逆境から回復する力）が注目されています。この種の言葉がもてはやされるのは、子どもたちに限らず、私たち大人も含め、困難や逆境に直面した時にやり抜くことができず、心が折れてしまう人が今の世の中にそれだけ多いことを示唆しているからです。

子どもたちにとっても、新型コロナウイルス感染拡大後に、悩みやストレスを抱えている子どもが増えていると訴える教育関係者は多くいます。一斉休校のあった2020年春以降、部活動や学校行事などが制限されて外出の機会も減り、イライラ感が増して精神的に不安定になる子どもが目立つようになったと言われています。

そのため、ちょっと思い通りにならないだけで、「困難」に直面したと捉えて、「逆境」に立たされる気分になる人が増えています。克服するためには「やり抜く力」や「挫折からの回復力」を身につけなければなりません。

VUCA（ブーカ）（変動、不確実、複雑、あいまい）の時代にあって、急激な変化に対応するG R I Tやレジリエンス（強靱さ）を備えられる教育をしていきたいと考えています。その最も有効な手立てが、子どもたちの自己肯定感を高めることです。自己肯定感は生きる力の根っこです。



自己肯定感が高いほど、大きな壁を前にしても「自分は乗り越えられる」と自信を持って取り組み、他人に対してもやさしく接することができます。また、物事に積極的にチャレンジすることもでき、幸福感が満たされると言われています。

では、どのようにすれば、子どもたちの自己肯定感が高まるかについては、国立青少年教育振興機構の2019年度「青少年の体験活動等に関する意識調査」結果によると、自然体験やお手伝いをしていることが「多い」ほど、自己肯定感が「高く」、反対に自然体験やお手伝いをしていることが「少ない」ほど、自己肯定感が「低い」と公表しています。古荘純一氏（青山学院大学教授）は、日本の子どもの自己肯定感が低いのは、主体的（能動的）な体験の乏しさを挙げています。そのためにも、子どもたちに様々な経験や体験を積ませることはとても重要なことです。

また、子どもが部活動や学校行事、習い事などで、一生懸命頑に張っている姿をリビングの壁などに子どもの目線の高さに貼ってください。日常的に繰り返し見ることによって、「私はこんなにがんばったんだ」「成し遂げたんだ」と自己肯定感を高めることができます。自己肯定感が高まると、探求力も身につけることができます。認めて、褒めて、励まし子どもたちの自己肯定感を高めていきましょう。

天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhhigh/jr_tenn/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、天王寺川中学校のホームページをご覧ください。

学校の様子をクリックしていただくと、最新の情報をご覧いただけます。

